

8/1~9/2

ジョギン I 峰 (6465M)

手塚 紀恵子

この夏は、インドのガルワール・ヒマラヤという山域で、山登りをしてきました。ヒンドゥー教徒にとって聖なる川であるガンジス、その源流部にあたります。ガンジスに添ってさかのぼると、ガンゴトリという聖地に着きますが、ここが交通機関の入る最奥の場所で、お寺やサドゥーと呼ばれる不思議な人々がいて、飽きない所です。インド中から巡礼がやってくるありがたい場所ですが、ガンジスもここまでさかのぼるとすっごい激流で、沐浴するなら命懸け、ザイル必携になりますが、心臓まひも心配です。氷河がすぐそこまで迫っています。

私達は、ここからガンジスの本流を離れ、支流であるケダル谷に入ります。もちろんここからがキャラバンで、ポーターは全員ネパールからの出稼ぎ、12才の少年からかなり高年齢の人まで、厳しい現実を見る思いです。彼らには山ほど背負わせ、自分達はデイパック、こんな事でもいいんだらうかと、しきりに自己嫌悪に陥るヒマラヤ初見参の人もいました。こういう問題、深入りすると本当に難しいのです。ケダル谷に沿って遡る事5日、氷河のモレーン上にBC建設。ここにはとっても大きな氷河湖があって、鋭鋒テレ・サガールを映して、夢見るような美しい場所なのです。ちなみに、このテレ・サガール(6904M)は、マッターホルンをもっと鋭くしたような山容で、インドヒマラヤでは第一の難峰、しかもこのケダル谷からのルートはまだ未登との事。私達は、終始この鋭鋒を仰ぎ見ながら山登りをする事になるのですが、テレ・サガールを見ながらジョギンに登るというのは、「ちょうど、槍を見ながら蝶ガ岳に登る感じかな。」とうまい事を言った人がいます。

さて、私達の登った蝶ガ岳のような山、ジョギンは、ひたすらケダル谷をつめていけばよいのです。ABCの上からは、アイスフォール帯が始まり、ザイル必携の本格的な山登りになります。氷河以外の岩場が剥出しになった所は、落石がひどく、音もたてずに空中から突然岩が飛び出して来たりするのは、恐いとも思えず、ただただ啞然としてしまうばかりでした。C1は、クレバスの心配な氷河の上、歩くとビシーツ、ビシーツと音がして氷が割れるのは恐怖でしたが、突然人間が落ちる程には開かないもんだと分かれば、慣れるもんです。それでも、亀裂は確実に広がりますから、ピッケルなんかの小物は注意しないとイケません。クレバスの大きいものは、いったん底まで降りて、反対側を登り返したりもして、これが何しろ空気のうすい所ですから、けっこう気力を削ぐものでした。ダブルアックスは、不慣れなもんで、息があがってかなり苦しく、これを無理しても右手一本にすれば、とっても楽になります。熟練度のない技術はヒマラヤでは通用しない、としみじみ思いました。

C2は、ほとんど氷河の源頭部で、ここからアタックをかける事になります。アタックの朝は、早朝3時出発。ここまでほとんど高度障害らしいものを感じずにきた私も、この朝は、吐き気がして、寒かったし、さすがに辛く感じたけど、不思議な事に日が昇ったのと一緒に治ってしまいました。氷河が稜線に突き上げ、垂壁を登って雪尻を越える所が、最大の難所でした。それでも登りは何とでもなるもんですが、下りは、なかなか大変でし

た。話が前後してしまうけれど、垂壁にはダンラインを張りました。ユマールで下るとい
う技術を持たない私は、プルージックで下るのだけれど、垂直では全然利かなくて、落ち
たくないと思うだけで疲れてしまう。ただただ長い壁でした。こういう時はどうするのが
本当なんでしょうか。

稜線に上がると、後はちょっと傾斜のきつい稜上をただただ辿るだけ。晴天にも恵まれ
て、360度の山岳展望を満喫し、頂上で過ごした束の間の時間はまさしく至福の時でし
た。日本人は、ただただ写真を撮りまくっていましたが、インド人スタッフは、線香やら
ココナツ、神様用に売っているハッカの味の菓子に、神様のプロマイドまで、あれこれ上
頂に並べたて、ガンガ神への感謝の祈りを捧げだしました。これにはちょっと心動かされ
るものがありました。この祈りのシーンを映すべく、またまたカメラを構える日本人で
した。山頂には、30分しかいられませんでした。でもこれは正解、午後から崩れるのが
ここらの天候の特徴で、追っ掛けるようにしっかり雪が降ってきました。そしてアタック
の翌々日からは連日の雪、登頂できたのは本当に運がよかったと思いますが、インド人ス
タッフは神様のおかげだと思っています。

一度高い山の頂上に立ってみたいと思っていましたが、済んでしまえばどうって事ない
のが以外でした。それでも、登れなければあれこれあるんだろうなと思うと、どうってこ
とないというのは、きっと大満足という事なんでしょう。準備の段階の仕事の煩わしさ
とか、技術面、体力面の不安とか、トレーニング山行をさぼりたいとか、行きたくない理由
もあれこれあって、実は何度もやめようと思ったけど、気が弱くって言い出せなくて、と
うとうお金を払ってしまっ…。それでも、最高の結果を得る事ができて、あれこれ手を
抜いた事、本当申し訳ないような気持ちもしています。

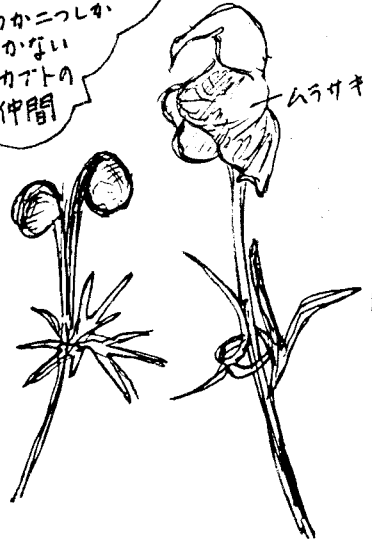
BCに戻ると、コックやキッチンボーイが、こちら辺にいっぱいある平たい板を上手に
積んで、巨大なダイニングルームを完成させ、花を飾って歓迎してくれました。信仰厚い
このコックは、キッチンの中にも祭壇を作り線香をあげ、私達の登頂を祈ってくれていた
そうです。「何の神様を信じているの。」と尋ねると、「何とかと、かんとかと、ハヌマ
ーン」というので、「知ってるわよ。ハヌマーンて猿の神様よね。」と軽く言うと、「ハ
ヌマーンは、勇気があって、知恵があって、等々」と真剣に話してくれて、ハヌマーンの
奇っ怪な様相だけを捕らえて、こんなものがどうして信仰の対象になるのか、と思っ
てしまった私だったけど、コックがハヌマーンのすばらしさについて語るのを聞いて、本当の
信仰って、目に見えるものに惑わされず真実を見抜くものだったっけ、とハッと気づいた
ものでした。。ヒンドウの教えって、含蓄にとみ、深いものがあります。あのけばけば
しい神々は、愚か者に対して真実を巧みにカムフラージュするためのものなのかもしれま
せん。BCでは、近くで放牧している羊を一頭買ってきてサクセスパーティーを開きまし
た。平たい石が鉄板代わりの焼き肉は、醤油味で実に美味でしたが、これは日本人による
もの。それ以外はコックに任せたら、晩、朝、昼、晩、と4食続けて、当然の事ながらた
だただマトンカレーがでました。

そんなこんなで楽しい旅でした。次は7000M峰かな、ともう馬鹿な事を考え始めて
いる私です。

←これがジョギンI山峰なのです。



4200m付近
寒さのためか花か
一つか二つしか
つかない
トリカブトの
仲間



ABCにマ
ウサギギクに
似た花
こまで実ると
花はごくごく
少ない



うす花びら



5000m, ABC
これは小さな小さな
エーテルロイス
ロゼット状の葉と花だけ
茎は全くない。地面に
パツパツくっついてる。

ABC
5000m付近
日当りのよいモレーン
の間に咲く
ウルクソウ科の好花